

科目名	ファーマドリルステップ5			ナンバリング	561065	授業形態	演習
対象学年	5	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	住谷 賢治	担当教員	片桐拓也、松本司、菊池雄士、田島裕久、金容必、蝦名敬一、櫻井映子、佐藤陽、林正彦、村田和子、佐藤龍昌、江藤忠洋、山崎勝弘、村田亮、吉川真一、渡邊義久、福地祐司、永田隆之、石川晁志、				

授業の概要	5年次の実務実習で身につけた知識や経験を踏まえ、1～4年次に学んだ教科との関連づけを行いながらこれを復習し、各教科に関連した応用問題を解き、さらに「薬剤師として必要な問題解決能力」を修得することを目的とする。						
到達目標	1～4年次に学んだ教科の内容を実務実習で学んだ知識・経験と関連づけて深く理解することにより、各教科の高度な応用課題(国試における実践問題に相当する課題)を解くことができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	薬剤師として必要な問題解決能力は、断片的な知識の寄せ集めでは不十分である。各領域の知識を有機的に結びつけ、応用することが求められる。実務実習で身につけた知識・経験を踏まえて、1～4年次に学んだ学習内容を教科間の関連を考えながら復習すること。						
ディプロマポリシーとの 関連	【薬学部薬学科のディプロマポリシー】						
		1. 薬剤師の社会的義務を認識し、医療の担い手としてふさわしいヒューマニズムと倫理観を具現できる。					
	○	2. 医療分野における問題点を発見して解決するために、研究マインドと知識を統合・活用する力を有する。					
		3. 患者本位の医療を実施するために、チーム医療における円滑なコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 地域の医療および保健に貢献するために、薬剤師としての実践的能力を有する。					
	○	5. 薬剤師として科学と医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的学習ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 1～4年次で学んだ教科の内容を実務実習で学んだ知識・経験と関連づけて深く理解できる。 2. 講義に出席する。	1. 各教科の高度な応用課題を解くことができる。 2. 全ての講義に出席する。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○					100%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							

課題、評価のフィードバック	1. 毎回の講義にて各分野の演習問題を解き、必要に応じた解説を行う。 2. 解答用紙は、要請があればいつでも開示する。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第16回	製剤学演習 (住谷 賢治)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第17回	実務演習1(薬局) (永田 隆之)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第18回	実務演習2(病院) (吉川 真一)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第19回	医薬品情報学演習 (石川 暁志)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第20回	法規・倫理演習 (山崎 勝弘)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第21回			
	第22回			
	第23回			
	第24回			
	第25回			
	第26回			
	第27回			
	第28回			
	第29回			
	第30回			
	試験	第1回～第20回までの範囲について、国家試験問題に準じた多肢選択式の客観試験を実施する。		
授業の進め方		各講義内容に則った演習問題を解き、必要に応じた解説を行う。		
授業外学習の指示		【予習】講義予定の領域に関する項目について、教科書や過去の資料等を用いて事前に学修しておくこと(30分)。 【復習】繰り返しの学修が重要であるので、講義終了後に60分の復習を行うこと。また、実務実習で身に付けた知識・経験と各々の教科の関連を考えて復習すること(60分)。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	1～4年次の学習に使用した教科書を使用する。必要に応じてプリントを配付する。プリントは紙媒体での配付の他、必要に応じてmanab@IMUを利用する。
参考書	
参考URLなど	
その他	講義期間：2019年5/15～5/22(集中講義)

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	生化学演習 (片桐 拓也)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第2回	免疫学演習 (菊池 雄士)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第3回	機能形態学演習1 (江藤 忠洋)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第4回	微生物学演習 (金 容必)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第5回	薬理学演習1 (松本 司)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第6回	薬理学演習2 (田島 裕久)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第7回	薬理学演習3 (林 正彦)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第8回	薬物治療学演習1 (村田 和子)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第9回	薬物治療学演習2 (佐藤 龍昌)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第10回	衛生学演習1 (蝦名 敬一)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第11回	衛生学演習2 (櫻井 映子)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第12回	衛生学演習3 (佐藤 陽)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第13回	物理薬剤学演習 (渡邊 義久)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第14回	生物薬剤学演習 (村田 亮)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	第15回	薬物動態学演習 (福地 祐司)	各講義テーマに関する演習問題を解き、各自の理解度を把握し、より高度な理論問題や実践問題の正解が導き出せるように講義する。	
	試験			